

PLS220 国際政策

2年 3,4クォーター

担当教員 細谷 龍平

授業形態 講義, 演習

単位数 2

曜日・時限 月曜日・5時限

授業概要

先行科目「国際関係論」で学習した複眼的・学際的なアプローチを応用し、大きく展開している現代の外交・国際関係にまつわる具体的な政策課題の事例を分野横断的に取り上げて、研究・考察する。後半は、各受講生が、自ら選択する事例について調査・分析をレポートに取りまとめ、授業でプレゼンテーションを行って、討議する。

到達目標

- (1) 国際政策の具体的な分野に即し、国際関係論の様々なアプローチを織り交ぜた事例研究を通じて、そこに働く原理、仕組みなどへの理解を深める。
- (2) 各受講生自らが選んだ国際政策の事例について、複眼的・学際的なアプローチで分析し、評価・提言を行う能力と姿勢を身につける。

先修科目

「国際関係論」を履修しておくことが望ましい。

教科書・参考資料等

- (1) 今井隆吉・細谷龍平編 「新しい世界像」 世界平和研究所 1998年
- (2) 防衛大学安全保障学研究会 「安全保障学入門」 亜紀書房 2009年
- (3) 大沼保昭 「歴史認識とは何か」 中公新書 2015年
- (4) 森井裕一他 「地域統合とグローバル秩序」 信山社 2010年
- (5) 外務省 「日本のエネルギー外交」 2014年
- (6) 勝間靖 「テキスト 国際開発論」 ミネルヴァ書房 2012/13年
- (7) 有馬純 「地球温暖化交渉の真実」 中央公論新社 2015年
- (8) 佐藤禎一 「文化と国際法」 玉川大学出版部 2010年
- (9) 金子将史・北野充 「パブリック・ディプロマシー戦略」 PHP 研究所 2014年
- (10) 細谷龍平 「サイバー空間とヴァーチャル外交及びネーション・ステートの終焉」 世界平和研究所 1997年
- (11) Joseph Nye “The Future of Power” Public Affairs 2011
- (12) Robert Keohane and Joseph Nye “Power and Interdependence in the Information Age” Foreign Affairs September/October 1998

授業の方法

この授業は講義及び演習形式で進める。双方で質疑応答、討議に積極的に参加することが求められる。特に演習においては、各人が英文で作成したレポートに基づくプレゼンテーションを行い、これに対し、相互批評、少人数のグループでのディスカッションなどを行う。

成績評価

積極的なクラスの議論への参加。レポートのプレゼンテーション、及び相互批評、質疑への応答。複数の視点から分析し、総合する力。議論の展開に即して考える応用力。

成績

- 40% 議論への参加
- 60% レポート内容

授業スケジュール

第1回：対テロ安全保障と集団的自衛権

アルカイダ、ISIS などによるテロ事案増大の背景と、国際的取り組み、日本の関わりについて考える。

第2回：歴史認識問題

太平洋戦争に遡る日本と東アジア近隣国との関係を、旧仏領アフリカにおけるフランスの植民地統治に根ざす「歴史問題」との対比で考える。

第3回：クーデターと憲法秩序の回復

マダガスカル政治危機（2009-2013）終結までのプロセスについての、日本の関わりを含むケーススタディー。

第4回：地域経済統合

多国間自由貿易協定などの歴史的変遷を踏まえて、TPP の日本にとっての意義を考える。

第5回：資源エネルギー安全保障

世界と日本のエネルギー・鉱物資源事情を踏まえた、我が国の外交的取り組みを学習する。

第6回：開発協力

マダガスカルへの経済協力を例として、マクロ経済と各セクターとの連関、ドナー間連携のあり方を学ぶ。

第7回：地球規模問題

地球温暖化への気候変動枠組条約をはじめとする国際的取り組みの現状と課題を検証する。

第8回：条約交渉

ユネスコでの文化多様性条約の交渉過程を例にとり、多国間の枠組における合意形成のあり方を学ぶ。

第9回：パブリック・ディプロマシー

文化交流と、政策広報、メディア対策を含むソフトパワー外交のあり方を、幾つかの実例で学ぶ。

第10回：情報通信と国際関係

インターネットなどの情報通信メディアの発達、国際関係・外交にもたらす変化を検証、考察する。

第11回：プレゼンテーション

受講生が選んだ事例について、各人プレゼンテーションを行い、質疑応答、討議する。

第12回：プレゼンテーション

第13回：プレゼンテーション

第14回：プレゼンテーション

第15回：プレゼンテーション

事前・事後学習

事前には、先修科目の復習、参考資料などを読んだの予習を行う。事後には、講義内容と討議を踏まえ、自らの関心に沿って、更に参考資料を含めた調査・考察を行い、プレゼンテーションに向けたレポートを作成する。